

琉球大学学術リポジトリ

第8回極東農業普及事業会議

(3) ー普及行政農業改良専門分科会の結果報告ー

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-06-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 古謝, 瑞幸, Kojia, Zuiko メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20610

第8回

極東農業普及事業会議

普及行政 農業改良専門分科会の結果報告

— 3 —

1. 開 会 式

6月11日、午前9時30分、由緒のある朝鮮ホテルのグラウンドホールで大勢の来賓、会員傍聴者の参列の下に金鐘大農林次官の開会の挨拶で会議の幕が開かれた。

先ず来賓として宋堯讓総理大臣、J・S・キーレン米
国経済開発協力局農村振興部長、柳ヘイ賢国家再建最高
会議農林分科委員長張ケイ淳農林大臣の心温まる歓迎の
挨拶と力強い激励のおことばが述べられた。
続いて各国の団長により会員の紹介がなされた。

参加国は韓国、日本、琉球、台湾、フィリッピン、ベ
トナム、タイ、カンボジアで他の数カ国は都合により今
回は参加していなかった。また、各国の派遣代表の数は
2～7名であった。

◇ ◇

午後1時、全会員を代表して各国の団長が揃って朝鮮
動乱のさげしになった無名戦士の墓に参拝し、焼香を捧
げた。

3時から役員を選出が行われ、議長に金鐘大農林次官
が選ばれた。

会議は2日目から本格的活動にはいるのであるが、そ
の内容を細かく説明するのは紙面の都合上到底不可能で
あるので重要なポイントだけを採上げることにする。

なお、会議は共通語として一斉に英語が使われた。

2. 「わが国の普及事業」の発表

各国の団長によってその国の普及事業の現況、直面す
る問題とその対策、経験などを発表するプログラムで、
非常に興味深いものの一つである。発表時間は15分間に
制限され、それに対して15問の質疑応答の時間が設けら
れた。6月18日は琉球の番で、筆者が発表を担当した。
余程興味があるらしく、質問も活発で張合があった。特
に政府、大学、農連の三団体による普及事業の運営は好
評を博し、活動の調整の仕方は質問の焦点になった。

3. 第1次分科会

分科会は全会員を4グループに等分して組織された。
各グループは若干のアドバイザーとオブザーバーがあっ
て大体11名のメンバーによって構成された。

この分科会の使命は①普及行政と農業改良 ②生活改
善 ③農村青少年 ④普及情報の4分野に関し、改善さ
れるべき問題としてどんなのがあるかを研究すること
である。

各会員によって自由に提言された諸問題は最も重要と
思われるものから優先的に簡条書にされ、その日の午後
の総会で発表された。

各分科会でまとめた問題は15～20も数えるがその中
には重複する問題もでてくる訳である。こうしてでき上
った諸問題は解答を求めて第2次分科会に送られる。

4. 第2次分科会

第1次分科会を解散して第2次を組織する。

第1次は会員を適当に4等分して組織したのに対し、
第2次は会員の数には殆んど関係なく、各自の専門分野
に参加するように組織された。いわゆる専門委員会であ
る。この委員会は第1次でまとめた問題に更に新しい問
題を加え、専門的な立場からこれらの諸問題に対する対
策又は解答を与える事を使命とする。

第1次の4グループからのものも合わせてまとめられた
問題は相当の数になるので、系統別に分類して幾つかの
問題にまとめられた。そしてその中で特に重要且つ共通
と思われるものを採上げて対策を構ることにした。

しかし、制度や組織もことなる10余カ国のことであるか
ら、全問題が必ずしも共通するのではなく、部分的共通
がある事を念頭において読んでいただきたい。

なお、普及行政と農業改良には筆者、生活改善の方
には仲里氏が出席したが、農村青少年と普及情報も同時
に開かれたためこれらには参加出来なかった。

普及行政分科会の結果報告

問題 1 極東のある国々においては農業団体の普及プ
ログラム遂行に際し、政府職員の認識と支援が欠け
ている。

解決策① 政府と独立した団体によって普及事業が行わ
れている国においては政府が両団体の総合的な普及
政策を決定することが望ましい。

農業改良分科会の結果報告

問題 2 立法及び行政指導者の普及プログラムの価値に対する理解が不十分である。

対策① 報告書、出版物その他の通信機関を通じて立法及び行政者に普及事業の実績についてよく知らしめる。

② これらの人々を進歩的な農場や部落に案内して視察せしめる。

③ 普及事業が国家の産業経済に貢献している実績についてこのような指導者達に知らしめるために情報活動を改善強化する。

④ 普及事業はいかにして農民の進歩をはかるかということを示すプログラムを作製し、行政府に提出する。

⑤ 立法及び行政指導者を国際農業普及事業会議に案内する。

問題 3 普及行政は不当な圧力を受けることなくプログラムの決定に対しては責任と権威をもつべきである。

対策① 普及職員の採用と任命を司る特別な基準を設ける。

② 普及職員の高度の技術水準を維持するために普及プログラムの施行に際しては政治的干渉は最少限度に食い止める。

問題 4 奨励事業と普及事業の衝突

対策① 社会開発事業 (Community development program) は技術的な指導は普及職員に任して、人々の教養の向上と調整を受持つべきである。

② 責任分野を明確にするために、普及事業と社会開発事業は活動範囲を限定する。

両機関の代表と図らって両者の責任分野を限定するのは行政府の責任である。

問題 5 普及事業と社会開発事業が同一の機関の下に別々に運営されているということは関係なく、いかにして両者を調整するか。

対策① プログラムは特別な必要と人々の興味に基づいて作製する。

② 農村振興に従事しているすべての機関を普及事業の下に統一する。

③ 普及行政官をプログラムの立て方、管理、普及行政について訓練する。

④ 普及行政にはプログラム遂行のための完全な責任を与える。

問題 1 責任と権威をもつ能力不十分な監督官

対策① 普及監督官の十分な訓練をなす。

② 普及監督官は十分な背景と権威をもった実際経験者から採用する。

③ 十分な評価調査をなす。

問題 2 いかにして研究と普及の密接な調整をはかるか。

対策① 普及と研究のより一層の密接な連けいを促進する。

② 農民の問題をとらえるために研究と普及の職員に合同調査の機会をもちます。

問題 3 いかにして農民の必要に応ずるための健全な普及プログラムを作製するか。

対策① 普及プログラムの作製に際しては自からの問題解決のために農民自体の積極的な参加を励める。

② 作製されたプログラムは関係当局に報告する

問題 4 普及教育方法の改善の必要性

対策① 普及員を進歩的な指導方法と技術について絶えず訓練する。

② 国立農科大学に農業普及学科を設置し、普及員の養成と、普及事業の研究をなさしめる。

③ 普及研究のデータを国家間で定期的に交換する。

問題 5 農業、土壤保全、優良種、灌漑、新技術などを利用して零細農地域の農業生産を向上せしめるには実際的にどう対処するか。

対策① 病害虫の防除を徹底せしめる。

② 適切な施肥を行わしめる。

③ 土壤保全の完備をする。

④ 優良品種を導入する。

⑤ 基礎的研究をなしてから、優良種の生産販売を促進する。

問題 6 有畜農業の採入れと改善

対策① 家畜管理の技術を強化する。

② 政府の補助金又は貸付資金により種畜の改良を図る。

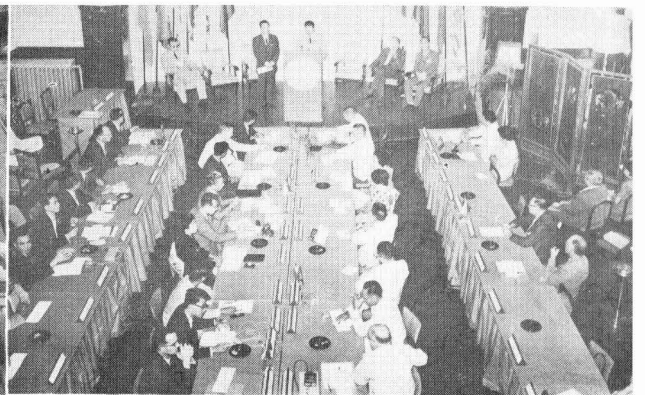
③ 畜産業振興のための牧草及び一般飼料の政策をたてる。

④ 畜産物の加工及び販売を促進する。

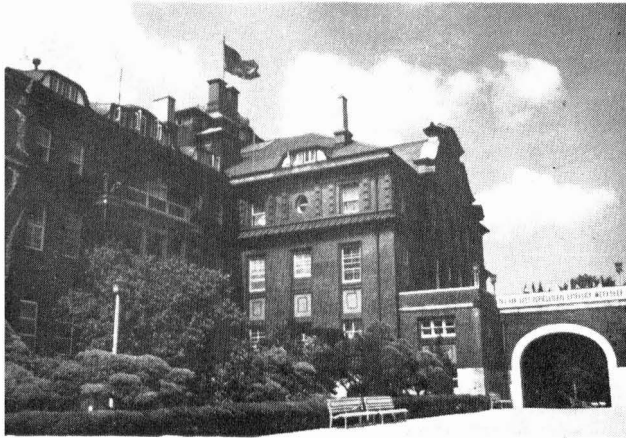
(つづく) (古謝 瑞幸)



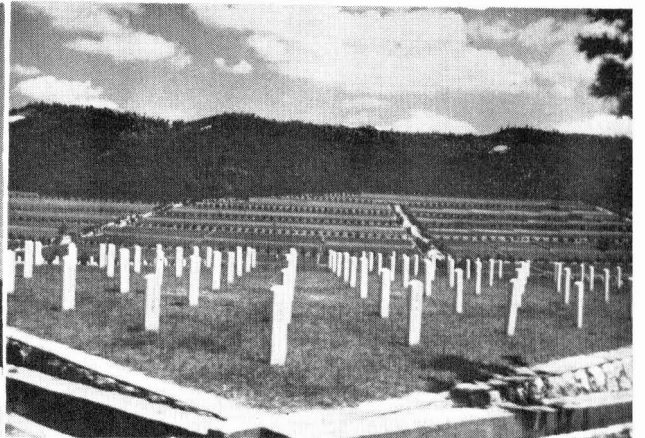
会議に参加した各国のメンバー



開会式 最高会議農林委員長 柳准将が歓迎辞をのべるところ



会議が開かれた朝鮮ホテル



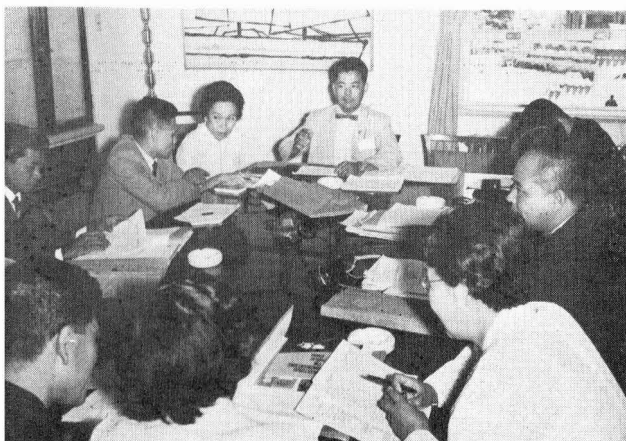
朝鮮動乱の犠牲になった無名戦士の墓地



最高会議 朴議長（中央）を訪問する各国代表 左から3番目が筆者



農林大臣（左から5番目）を訪問する一行



第一次分科会の討議風景



レポート発表後質問に答える筆者（左）